

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送りの前に職員一同で理念の読み合わせを行っている。利用者ひとりひとりの人生観、価値観を尊重し、利用者個人のその人らしさを大切にしたいケアを行うことを管理者と職員は共有し、実践に向けて取り組んでいる。	法人の理念が玄関に掲げられている。ホーム独自の理念はパンフレットにも掲載されており、利用契約時に本人や家族に説明している。また、朝の申し送り時には唱和し、理念に沿ったケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物や散歩等で地域の住民とのつながりを大切にしている。近所の方々から季節に取れた採れたての新鮮な野菜や果物を頂いたり、散歩中にお花を摘んで頂いたり、畑をみせて頂いたりしている。以前に住んでいた近くの神社や公園に散歩に外出している。	地区に協力費を納め地域の一員となっており、市の広報紙が配布されている。近所の方に野菜を頂いたり、お返しにお菓子を差し上げるなど日頃から親密なお付き合いをしている。読み聞かせのボランティア他、月に1回以上はボランティアの来訪があり利用者も楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	傾聴ボランティアさんや歌や、読み聞かせのボランティアさんなど地域のボランティアさんと交流する中で、認知症の理解や支援の方法を見たり、感じたりして頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、日常の介護の状況や行事報告、事故報告やヒヤリハット報告などを公表して、意見や助言を頂いたりしながら、サービスの向上に努めている。	家族代表、区長、民生児童委員、あんしん相談員、地域包括支援センター職員などが参加しており、利用者状況や活動の報告、ヒヤリハット等の報告を行い、参加者から意見や助言をいただきホームの運営に活かしている。	会議は暫くの間、開催されていない。地域の人々や家族との交流を深めるために、また、サービス向上のためにもホームの応援団として卒直な助言などをいただけるように2ヶ月に1回開かれることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議時には、施設の行事や、日々の取り組み、事故報告など細部に渡り報告している。転倒等事故報告時には、窓口で詳細を説明し、担当者からの意見や助言を頂き、改善すべき所を改善するよう努めている。	認定更新時には申請代行も行っている。認定調査時には利用者の日頃の様子などを調査員に情報提供している。市から派遣のあんしん相談員も月1回来訪し、利用者の話を聞いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室内でスタッフの目が届かない場所での転倒後の再発防止策として、センサーマットを利用したりしているが、認知症のため理解ができず、繰り返し転倒のリスクがある方には、本人やご家族へ説明、同意書を頂き、安全のための方法をとることがある。その際には、スタッフと家族との相談の上で行っている。	身体拘束については各ユニット会議で話題にしている。事故点検シートによりその弊害について確認をしたこともある。転倒事故防止のためセンサーマットを使用している利用者があるが、家族に説明し同意を得、記録に残し、解除ができないかどうか常に検討している。	マニュアルを基に研修会を定期的に行き、身体拘束をしないケアについて更に職員へ周知されることを望みたい。

グループホームグリーンテラス愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	両ユニットとも個別ケアプランを作成し、二か月毎に話し合い、更新している中で、利用者への対応は、ユマニチュードを基本とし、優しい声がけとていねいな対応を行うことを折に触れ説明、実践に向け努力している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は、対象者がいないが、機会があれば支援できるように研修をしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約改定の際は、入居以前に十分に説明し、ご理解、納得をしていただけるよう努めている。又その都度個別で対応が必要な時、相談の上、個別に柔軟に対応できるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時にご本人とご家族の希望、要望を聞き取り出された意見要望等を把握し、運営につなげている。又、日常的にどこに行きたい、何を食いたい、何をしたいなど会話の中で聞き取り、行事や外出、レクなどに反映させている。	自分で希望が言える方もいるが、難しい方については表情から汲み取るよう心掛けている。また、つぶやき等も大切に職員間で情報の共有をし、希望に沿えるよう取り組んでいる。家族からも面会時に希望をお聞きしている。担当職員から家族あてに毎月生活記録を送り日頃の様子をお知らせし意思疎通を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議以外でも、朝の朝礼引き継ぎの際に意見要望の把握に努めている。又、個別に意見や提案が出された時は、各ユニットリーダーとも相談の上実践できるよう努めている。	日々の申し送り時に意見を聞いている。ユニット会議でも活発な意見交換が行われており、出された意見はサービスの質の向上に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者、職員の実績、勤務状況を把握し、各自が個々の能力を発揮できるよう、研修に行かせたり、有給休暇を取得しながら、休みを取れるような労働環境を作る努力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の勤務期間などを考慮し、研修を受ける機会を与えている。研修報告書を全体で回覧し、職員のケアの質の向上が図れるよう努めている。		

グループホームグリーンテラス愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、他のグループホームの取組状況を研究し、行事や活動状況などを学び、サービス向上を目指す取組をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に利用者の生活への希望や、現在不安に思うこと、困っていることなどをお聞きし、安心して入居後の生活ができるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、本人と家族の困っていること、不安なこと、要望等をお聞きし、入居後の生活について何かあったときには、ささいな事でも本人や家族に相談し、よりよい方向性を導けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、本人の状態を確認し、グループホームの特性を説明し、グループホーム以外の選択肢が良いと思われる場合は、他の利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中で出来ることを一緒にして頂き、共に支えあう信頼関係を築いていくよう取り組んでいる。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会、誕生日会の参加や、電話等で本人の様子や、生活状況を伝えて、何事も相談の上本人を支える関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が一番大切にしている家族が気兼ねなく訪ねられるように心がけている。又、不足品や、ズボンのゴムいれなど家族へ頼んで、家族が足を運んでくださるようお願いしている。	お盆、正月、連休などに外泊される方もいる。親戚、孫、友人の来訪もあり馴染みの関係が途切れないよう支援している。利用前からの馴染みの美容院に家族がお連れしたり、希望によりホームでお連れする方もおり、馴染みの関係が継続出来るよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者のそれぞれの生活を尊重し、孤立することがないように、簡単な食事の手伝いや、洗濯たたみ、掃除等促し、共に支えあえるような支援に努めている。		

グループホームグリーンテラス愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、本人と家族との関係を大切に、必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どんなことも、本人に聞きながら希望、意向の把握に努めている。意思を表出するのが困難な利用者においても、家族に聞いたり、本人の表情などから喜んで頂けることを検討している。	利用契約時に生活暦や嗜好などを本人・家族から聞き、日々の生活の中で声掛けする際にもそれを念頭に利用者の希望を聞くように心掛けおり、本人本位のケアに取り組んでいる。外出なども出来る限り希望に沿えるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にどのように暮らしていたかを聞き取りし、他のサービスの利用状況などについても情報を把握し、今後の支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、健康チェックを行い、食事量や、排便管理、睡眠や、活動の様子など、記録し、心身の健康状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1人1人の個別ケア計画を作成し、二か月毎に話し合い、更新している。本人、家族から出された意見があれば、意見を反映し、ケアプランに追加したり、問題があれば見直しをしている。	担当職員が立てた個別プランを基に計画作成担当者が立案し、2ヶ月に1回のユニット会議の都度見直しをかけている。家族の面会時に声掛けし、見直し後の介護計画を説明し更に要望や意見を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践による気づきを利用者の午睡中などに職員間で話し合ったり情報を共有し連絡ノートで送りながら、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況を考慮し、様々な希望や要望に対し、柔軟な支援や提案をしている。		

グループホームグリーンテラス愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアさんに来て頂き、レクリエーションを楽しんでいる。近所の方に挨拶したり、新鮮な野菜を頂いたりして顔なじみの関係ができてきている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と訪問看護ステーションと連携し、24時間365日の医療支援を行っている。必要に応じ、本人や家族の希望する病院へかかりつけ医が紹介状を書いて適切な医療を受けられるように支援している。	利用契約時に希望を聞いているが、全利用者がホームの協力医を主治医にしており、毎日1人ずつの往診が行われている。毎日医師の来訪があるため状態に変化が生じた時には相談ができる。歯科についても月に1回訪問診療がある。歯科衛生士が月3回来訪しており、訪問歯科医にも情報提供がされ連携がとられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の健康状態のチェックと何か変化や異状があれば、すぐに訪問看護ステーションの看護師及び、クリニックの看護師に報告、相談し、必要時は、医師への往診につないでいる。巻き爪の爪切りや、褥瘡の処置方法など日々のケアについて看護師に学んだり、指導を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、本人や家族との相談の上安心して治療が受けられるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時重度化したときの対応について、本人、家族に意思確認を行っている。又入居生活の中で本人の病状や身体状況に変化があったときは、その都度家族に相談し、できるだけ、本人や家族の意向に沿った支援ができるよう努めている。	重度化した場合の指針が作成されており利用契約時に説明し、利用者や家族の意向を聞いている。ホームとして看取りの経験もあり、状態の変化に応じて本人や家族の気持ちの変化も生じてくることから、その都度、家族、医師、看護師、職員と話し合いを持ちながら希望に沿えるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故時の緊急連絡先を張り出し、医療職員にすぐに連絡できるようにしている。応急手当や初期対応は、医師や看護師に指示をもらったり、よくある事例をもとに確認し、実践している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回地域の消防署に応援頂き、利用者も参加して避難訓練を実施している。又災害の種類に応じて避難箇所の確認をしている。施設では、スプリンクラーの設置や自動通報装置など、火災時の体制を整えている。	消防署や地元の消防団の立会いをいただき、年2回、避難・通報・誘導・消火訓練が実施されている。そのうちの1回は夜間想定で行われ、職員間での連絡網なども試し、万が一の時に連携出来るようにしている。	

グループホームグリーンテラス愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ユマニチュードを介護の基本とし、優しい言葉かけ、目線を同じ高さにする。その人のペースに合わせるなど、高齢者を敬い、尊重する姿勢を大切にし、笑顔で接することを心がけている。	法人やホームの理念には人権の尊重や尊厳の保持、利用者個人の人生観・価値観を尊重すること及び利用者個人のその人らしさを大切に介護について触れており職員も実践している。男性職員もおり、同性介助や異性介助など、プライバシーに配慮しながら希望に沿えるよう支援している。言葉かけは一人ひとりの生活歴を大切に利用者に合わせて対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どんなことも、本人に聞きながら希望、意向の把握に努めている。意思を表出するのが困難な利用者においても、家族に聞いたり、本人の表情などから喜んで頂けることを検討している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物に行きたいなど、家族に相談の上、了解を得て、本人の希望を叶えられるよう支援している。体調や気分に合わせて、強制をしない、個々の選択を尊重してケアをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え時に洋服を選んでもらったり、季節に応じて衣替えをし、季節感のある洋服を着ていただく支援をしている。定期的に訪問美容師に来てもらい、カットを希望される方に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者ひとりひとりのできることを大切にし、調理から洗い物、食器拭き、片づけなど、スタッフと一緒に食事の準備、片づけを行っている。	利用者に応じたカロリー計算を基に食材業者が1ヶ月の献立を立て、レシピも添え前日に配達している。調理の下ごしらえから片付けまで利用者一人ひとりの力量に合わせて職員と一緒にやっている。利用者も行事食、誕生会の特別メニュー、外食などを楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の健康状態のチェックと共に、毎食の食事量の記録を行っている。水分摂取量が不足しがちな方には、声かけを多くしたり、好みの飲料を用意して摂取を促すとともに、必要に応じて記録をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師や歯科衛生士に必要時に入って頂きながら、口腔ケアについて指導を受け、やり方を教わり、口腔状態の把握をしている。個々の状況に合わせて毎食の口腔ケアを行っている。		

グループホームグリーンテラス愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	歩けない方や、立つことができなくなった方も最後までトイレで排泄して頂けるよう支援している。排泄行為を最優先とし、本人がトイレと訴えられた時に誘導することを基本にし、ケアをおこなっている。	布パンツやリハビリパンツにパットを使用している利用者が多いが職員は一人ひとりに合わせ支援している。職員は一人ひとりの排泄パターンを把握し、尿意のない方にも時間を見計らってさりげなく声掛けをトイレ誘導するなど、トイレでの排泄を大切にしながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便管理は、毎日記録し、必要な方は、下剤や、坐薬で排便を促し、便秘の予防をしている。水分量の少ない方に飲水を声がけし、運動や、入浴時のマッサージなど便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夏場は、週3回 冬場は、週2回を基本としている。ユニット別曜日で行うので、希望があれば反対のユニットに入浴することもできる。10時～16時までの間で、希望する時間に入って頂いている。	ユニット毎に交代で入浴日を設定しており、入浴日以外にも希望により入浴出来る体制をとっている。菖蒲湯など季節に応じた入浴も楽しめるよう工夫している。三方向から介助出来る浴槽で、身体の状態により職員二人で介助したり、リフトも設置で出来るようになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	フロアーの起床時間と就寝時間は、定められているが、個々の部屋でテレビをみたりラジオを聴いたり、自由。朝食は、起きられない方やその日の体調により、遅れて食べられる場合もあるので、状況に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局の方が週1回、残薬や、利用者の個々の状況の把握に来られるので、その時に薬について副作用や飲み合わせなど詳しく説明を聞き、相談したり、必要があれば医師へ連絡して対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人のできることを大切にしている。家事活動は、個々に合わせて、様々なことをやって頂いている。利用者によりやりたい事を聞き、活動やレクにつながるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、散歩をして季節を感じて頂けるように努めている。又希望に応じて、ドライブして景色をみたり、お花見、紅葉、五月は、善光寺御開帳、茶臼山動物園などにかけた。外出時の外食も楽しみにさせている。	天候を見ながら日常的に散歩をしている。職員全員で少しでも外出の機会を設けるよう検討しており、一人ひとりの身体機能に合わせてながら花見、紅葉狩りなど季節に応じて外出をしている。外出を楽しまれた様子がホーム便りからも窺うことが出来る。	

グループホームグリーンテラス愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は、本人、家族と相談の上行っている。現在は、施設でお金の管理を行う利用者がいないが、欲しいものがある時は、家族へ了解を頂き、施設で立て替え払いをし、後日請求という形をとって支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望があれば、家族に電話できるような支援している。手紙の返書など本人が書ける場合は、やりとりできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、利用者の行事風景や写真、皆で作った作品などを飾り、話題にしたりできるように工夫している。エアコンなど利用者が不快にならないよう調整している。	駐車場に面したリビングは両ユニットとも広く陽当たりも良く、何時でもレクリエーションが出来るようにスペースが確保されていて歌やゲームで楽しく過ごしている。トイレもそれぞれ広さを変え、使いやすいように工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者のそれぞれの身体状況に合わせて、リラックスして過ごして頂けるよう、又一人ぼっちにならないよう配置を考えている。状況の変化により席替えをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人と家族と相談し、使い慣れたものや馴染みの家具などの持ち込みを提案している。入居状況の変化により、居室環境を見直す時は、その都度本人と家族に確認し、対応している。	居室には馴染みの筆筒や好みの物が持ち込まれ、趣味の作品や家族の写真も飾られ、落ち着いて生活が出来るように工夫がされている。また、家族と相談しながら一人ひとりに合わせ調度品の配置も考え利用しやすいようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂、自分の部屋に名前をはり、場所がわかるようにしている。通路は、広く障害物をおかず、車椅子の方もすれ違えるようにしている。		